

泣きながら、愛しあいながら、誰もが必死に生きた あの時 —— 1945年 夏
僕の青春時代は 確かに そこにあった

美しい夏キリシマ

黒木和雄監督作品



柄本 佑 小田エリカ 石田えり 香川照之 左 時枝 牧瀬里穂 原田芳雄
宮下順子 中島ひろ子 平岩 紙 倉貫匡弘 山口このみ 眞島秀和 甲本雅裕 寺島 進 入江若葉

プロデューサー/仙頭武剛 脚本/松田正隆・黒木和雄 音楽/松村純三 ラインプロデューサー/金原保
撮影/田村正毅 照明/佐藤謙 録音/久保田幸雄 美術/藤見俊裕 装束/平子吉文・亀岡政文 装飾/須坂文昭 衣裳/二宮義夫 宮本美莉 ヘアメイク/小堺なな 助監督/原正弘 制作統括/中村晋也
編集/阿部互英 スクリプター/内田伸子 音響効果/机功幸雄 題字/谷松陽博 制作担当/金子聖太郎・蔭井輝 キャスティング/近藤亮一 ブログアクションマネージャー/川原真
協力/えびの市・宮崎県・えびのロケ支援実行委員会 製作/ランブルフィッシュ 2002年 カラー/118分/DTSステレオ/シネマスコープ ©ランブルフィッシュ WWW.pan-dora.co.jp 配給/ピンドラ
協力:宮崎県 後援:社団法人宮崎県観光協会・えびの市 協賛:スカイネットアジア航空株式会社 柳田酒造 文部科学省選定 日本映画ペンクラブ特別推薦 優秀映画観賞会推薦

世界の名画を見る会 vol.24 企画・構成 高野悦子

- 14:00～ 挨拶:高野悦子 (岩波ホール総支配人)
- 14:15～ 講演:黒木和雄 (映画監督)
「美しい夏キリシマ」について
- 15:00～ 上映:映画「美しい夏キリシマ」
(日本/2002年/カラー/118分)



高野悦子



黒木和雄

■プレイガイド

黒部市	カラーレ	☎(0765)57-1201
	メルシー	☎(0765)54-2221
魚津市	新川文化ホール	☎(0765)23-1123
	魚津サンプラザ	☎(0765)24-3030
入善町	コスモホール	☎(0765)72-1105
	コスモ21	☎(0765)74-9100
朝日町	アスカ	☎(0765)82-2000
滑川市	サン・アビリティーズ	☎(076)475-3342
富山市	インフォーマット [市民プラザ]	☎(076)491-0110
	[CIC駅前店]	☎(076)444-7013
婦中町	アルプラザ富山(ファポレ内)	☎(076)466-1828
高岡市	高岡市生涯学習センター3F	☎(0766)20-1800

2005 7月24日(日)

開場 13:30
開演 14:00

黒部市国際文化センター-カラーレ(カーターホール) 全席指定 1,500円

公演当日に限り高校生以下の方は空席を500円でお買い求めいただけます。当日は必ず生徒手帳をご持参ください。

- この公演は黒部市の助成により低料金に設定しております。
- 5歳未満のお子様の入場はご遠慮願います。
- 公演中の一時保育(無料)を希望される方は事前にご連絡ください。

●お問い合わせ・チケットの申込み●

カラーレ

富山県黒部市三日市20番地
TEL. 0765-57-1201
FAX. 0765-57-1207
http://www.colare.jp/
e-mail:info@colare.jp

開館時間: 9:30~22:30(土曜~23:00)/毎週水曜休館

美しい夏キリシマ

プロデューサー：仙頭武則 監督：黒木和雄 脚本：松田正隆・黒木和雄
2002年/日本/カラー/118分/DTSスタジオ/シネマスコープ 配給 ハンドラ



これは日本映画史のうえで
長く名作として語り継がれるべき、すぐれた作品である。

佐藤忠男氏(映画評論家)

美しい羽に乗り、時代を超えても決して色褪せない作品。
この作品を生んでくれた黒木監督、スタッフ、出演者の皆さんに感謝したい。

永瀬正敏氏(俳優)

私も「あの日」の体験者だ。やはり美しい山と川があり、その中でスローモーションのように
既成世界が崩壊した。その非現実的な感覚。この映画は静かにそれを蘇らせる。

戸田奈津子さん(映画字幕翻訳者)



ないごて おいの方が 生き残ってしもたとな!

日本人の心に響く新たな名作が新たに誕生した! 映画監督・黒木和雄は少年期を過ごした宮崎の美しい村を舞台に、燃えさかる太陽の下、自身が生涯忘れることのない、ある夏の記憶をフィルムに結晶させた。

なぜ自分だけが生き残ってしまったのか——。「美しい夏キリシマ」は、1945年敗戦の夏、多感な15歳の少年と、彼を取り巻く人々の日常をきめ細かに描いた作品である。戦争下の混沌とした中、ある者は自暴自棄になり、ある者は自分の殻に閉じこもり、またある者は欲望をむき出しにする。しかし誰もが泣きながら、愛しあいながら、必死に生きていた。そして少年は純粹さゆえに傷ついてゆく——。かつて「TOMORROW/明日」(88)で原爆投下前日の長崎を舞台に、市井に暮らす人々を丹念に描いた黒木和雄監督は、「美しい夏キリシマ」で、同じ年の夏、故郷・宮崎で自身が体験した“戦争”を痛切に語る。

現代日本の大きな節目となった年、懸命に生きる人々の姿を、繊細に、あたたかく描くこの作品は、撮影の田村正毅をはじめ、日本映画界屈指のスタッフが集結して製作された。雄大な霧島山を背景に捉えた深く瑞々しい映像は、まさにスクリーンでみるのにふさわしい。主人公の康夫役に鮮烈なデビューを果たすのが、個性派俳優・柄本明の息子、柄本佑。かつての松

田優作など、新人俳優を見出すことに定評のある黒木監督が一目で起用を決めた逸材である。共演するのは原田芳雄らベテラン俳優が渾身の演技を見せつけ、小田エリカ扮するヒロインの切なさも一層の余韻を残している。

皆様へ

「美しい夏キリシマ」は、戦争をえがいた映画です。

しかし、殺し殺される凄惨な戦場が舞台ではありません。敗戦間近な南九州の片田舎の物語です。私は15歳の少年でした。そこでも人々は悲しみ、笑い、苦しみ、愛しあって懸命に生きていました。半世紀たって、忘却の闇にともすれば埋もれてしまう私自身の記憶を、渾身こめてよみがえらせ、この映画をとおしてあの時代の哀歎と悲傷をなんとか伝えたいと思いました。

この映画を、戦争の足音が間近にきこえてくるような日々のなか、あかるい未来を望む観客の皆様魂のみぎわにまでお届けできればと切に願っています。

黒木和雄

